

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-ア	国際交流・物流拠点の核となる空港の整備	施策	① 那覇空港の機能強化
			施策の小項目名	○那覇空港旅客ターミナル等の整備
主な取組	国内線・国際線ターミナルビルの連結整備			
対応する主な課題	②那覇空港の旅客ターミナルは、航空路線や旅客数の伸びにより狭隘化していることや、国内線及び国際線のターミナルが連結されていないなど、快適性、機能性、利便性に課題があり、急増する旅客等への対応や、観光立県沖縄の空の玄関口として相応しいサービスが十分に提供できていない状況にある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
沖縄の地域経済を支える観光需要に対応し離島住民を含む県民活動の要となる那覇空港の利便性向上に向け、国際線および国内線の旅客ターミナルを連結する施設を整備し、旅客ターミナル施設を一体化する。また、近年の国際線利用客の急増に対応すべく、C I Qおよび周辺施設の増築を行う。						
実施主体	那覇空港、ビルディング(株)、国	ターミナル連結整備				
担当部課【連絡先】	企画部交通政策課 【098-866-2045】					
		C I Q施設増築				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 際内連結ターミナル施設整備							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：－	
	その他	那覇空港ビルディング(株)	那覇空港ビルディング(株)	那覇空港ビルディング(株)	－	－	－		OR4年度：－	

予算事業名 C I Q施設増築							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：－	
	その他	－	－	国・那覇空港ビルディング(株)	国・那覇空港ビルディング(株)	－	－		OR4年度：－	

様式1(主な取組)

活動指標名	ターミナル連結整備				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	100.0%	0	順調	<p>活動概要</p> <p>際内連結ターミナル施設の整備が円滑に進捗するよう関係者と協力して取り組み、平成31年3月に供用を開始した。</p> <p>また、C I Q施設の増築および周辺関連施設の整備についても、円滑に進捗するよう関係者と協力して取り組み、令和2年11月に完成した。</p>
活動指標名	C I Q施設増築				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	100.0%			<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>際内連結ターミナルの供用開始により、国際線・国内線の施設が連結されたとともに、これまで専用バス移動が必要だった貨物地区の暫定ターミナルからL C C便が移転し、国際線・国内線・L C Cを含めた全ての定期便が一体化したターミナル施設を発着することとなり、利便性が飛躍的に向上した。</p> <p>また、C I Q施設の増築および関連施設の整備も順調に進捗し、令和2年11月に完成した。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案								反映状況		
<p>・国が策定する「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」について、将来的に増大する航空需要を的確に予測しターミナル施設の拡張等を盛り込むなど、民航エリアの拡張に向けた計画の改定に係る協議を、引き続き国と行っていく。</p>								<p>ターミナル施設の拡張や新たな課題について、国や関係機関と意見交換を行うなど、ターミナル施設のサービス向上および機能強化に向けた取り組みを推進した。</p>		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 際内連結ターミナルの供用およびC I Q増設施設及び周辺施設の完成によって、処理能力や空港サービスが向上し、国際線の旅客の受入体制が強化された。

○外部環境の変化

・ 新型コロナウイルス感染症の再拡大や変異株の流行によって、航空需要が落ち込み、那覇空港の利用旅客数が大幅に減少した。
・ 国際線においては、入国制限措置等によって2020年3月24日以降全便運休となっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 那覇空港のターミナル等については、国が策定する「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」に基づき事業を展開していくこととなるが、第2滑走路の供用に伴う発着回数の増加や駐機場の不足に加え、新型コロナウイルス感染症の収束後、将来的に予測を上回る航空需要の拡大により民航エリアの急激な狭隘化が見込まれることから、基本計画の見直しについて、引き続き国と協議を行っていく必要がある。
・ 新型コロナウイルス感染症収束後の利用拡大を見据えて、高度な保安機器などC I Q設備の導入を促進し、C I Qにおける処理能力の向上を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・ 国が策定する「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」について、将来的に増大する航空需要を的確に予測し、ターミナル施設の拡張等を盛り込むなど、民航エリアの拡張に向けた計画の改定に係る協議を、引き続き国と行っていく。
・ C I Q設備の高度化についても、NABCOや国と連携して整備促進し、更なる機能強化を図っていく。

様式1(主な取組)

活動指標名	調査・検討、経済界との連携等				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
	—	—	—	—	調査検討	—	80.0%	20,128	概ね順調	那覇空港の機能強化に係る張整備について調査検討を行い、国と意見交換を行った。	
活動指標名					R3年度						
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、経済界や国および関係機関との意見交換が行うことができないなど、一部連携がとれなかったところがあり、「概ね順調」とした。
活動指標名					R3年度						
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
(2)これまでの改善案の反映状況											
令和3年度の取組改善案						反映状況					
<ul style="list-style-type: none"> ・那覇空港の空港機能強化等について、第二滑走路供用後の新たな課題の把握と対応策の調査検討を推進する。 ・これまでの調査結果の内容等について、今後の需要の回復状況やトレンドを勘案し、適宜、本調査に修正・更新を加え、適切に活用する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・那覇空港の機能強化等、将来のあり方についての調査、検討を推進し、調査成果を基礎資料として国と意見交換を行った。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえ、経済指標等を更新し需要予測を再計算するなど、修正・更新を行った調査結果を元に、空港を管理する国の関係機関と意見交換を行った。 					



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・那覇空港ビルディング(株)による那覇空港際内連結ターミナル施設の整備が完了し、平成31年3月に供用開始した。
- ・国による第2滑走路増設事業が完了し、令和2年3月に供用開始された。
- ・那覇空港は需要増に伴い更なる機能拡張が求められるが、機能拡張に必要な民航エリアの用地が狭隘である。

○外部環境の変化

- ・これまで、アジアからの旅客およびLCC利用客の急激な増加と、那覇空港第2滑走路の供用開始により、国内線・国際線ともに更なる旅客数の増加が見込まれていたが、新型コロナウイルス感染拡大の長期化により、航空需要は大幅に減少している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・沖縄の長期的発展を視野に入れた空港機能強化等、那覇空港のあり方についての調査・検討においては、航空需要の回復状況を注視し、適切に反映する必要がある。
- ・第二滑走路の供用開始により新たな課題が生じていないか把握する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・那覇空港の空港機能強化等について、第二滑走路供用後の新たな課題の把握と対応策の調査検討を推進する。
- ・これまでの調査結果の内容等について、今後の需要の回復状況やトレンドを勘案し、適宜、本調査に修正・更新を加え、適切に活用する。